



〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺内
寺報編集部責任者 玉田 忠
電話0二七0(七四)0五七三

「わが寺」のめざすもの

弘教寺住職 中山 英昭

兄の急逝によって、寺を継ぐことになり、三十数年が過ぎた。兄の後、十年後には父も往生し、住職となつて夢中でやつてきたように思う。婦人会も一昨年三十五周年を祝う事ができた。父の往生した月を除き、毎月休みなく今日までやつてこれたことは、多くの方々の支えと励ましのお陰と深く感謝している。「継続は力なり」の言葉があるように、今そのことは会員の皆さんの誇りと自信になり、さまざまな同好会活動(フラダンスの会、コーラスの会、エコクラフト手芸の会)へと発展してきた。

さらに、十年前には壮年会を発足させることができた。男性を中心に、四十数名の会がスタートすると、相乗効果のように活発な動きが生まれた。ゴルフの会、囲碁の会の同好会が動きだした。寺報の発刊、合同研修旅行講演会、音楽会等もその成果であり、報恩講法要も二日間の法要へと広げることができるようになった。

大分以前になるが、本願寺新報の新年号に



飛騨高山の山里の寺が紹介されていた。四百年以上、庫裡の囲炉裏の火が消えていないという。つまり毎日寺に門徒の誰かが来ているというのである。只々驚きであつた。四百年という時間もさることながら、毎日寺に誰かが来ているということへの驚きである。その情景を想像するに、寺の「敷居の高さ」は、そこにはない。寺にとつては大変なことかも知れないが、寺の本来の姿ではないかと思つたのである。

寺は、葬儀や法事を営むだけの施設ではない。そのことも大事なことはあるが、仏法を伝え、聞かしていただく大切な「場」である。しかし、多くの現代人にとつては、仏事を営む以外、関心も魅力も持たない場所となつてきている。

私自身も経験者であるが、「法座に来る人が少なくなつた。」と嘆く寺の住職の方がある。現代人を対象に、法を聞きなさいと唱えて、どれだけきてくれるか疑問である。確かな「方策」があるならば、教えていただ

きたい。寺に求められているものは、門徒の方々と寺との信頼関係の上に成り立つ「居心地の良さ」ではないかと思う。住職はともすれば近寄り難い人と思われているが、その垣根(プライド)を外せば、ほとんどの人は打ち解けてくれる。蓮如上人は、参拝にみえた門徒の方々に、酒をふるまつたと聞いている。ときには酒を酌(く)み交わし、仏様の教えを語り合つたり、人生を語りあつても良いのではないか。私共の寺では、婦人会でも、壮年会でも、お客様扱いはしない。皆んなで片付けまですることを原則としている。婦人会の人々の方が、どこに何があるかは、私よりはよほど詳しい。壮年会の方々も、酒を呑んでいても、適当な時間に終了し、きちんと片付けを終え帰つていく、それでいいと思う。よその家に来た気がしないと云つて下さつた門徒さんが何人かいる。有難いことである。「お帰りなさい。」の心で、お迎えしたくなる。そうしたつながらり合いの中で、仏法はしみ込むものと思つるのである。今後多くの団塊の世代が、退職後の人生の歩み方を求めるようになる。寺が心身ともに受け皿となり、第二の人生を豊かに歩む基点となればと思うのである。わが寺のめざすものが見えてきた。 称名

28回

東京教区仏教壮年会連盟
結成記念日研修会報告

前会長 伊部 芳夫

「おみのりに遇えた喜びを語ろう」を大会テーマに第二十八回大会が横須賀市で開催され、ご住職をはじめ弘教寺の皆さんと参加させていただきました。医師である宮崎幸枝先生の「日々是好日」全ての医者



は坊主でもあれ」という記念講演で、患者さんとの心の交流を「お念仏は理屈でない、真(まこと)である。」というお話に感激し、「南無阿弥陀仏」の

有難さを再認識させていただきました。パネルディスカッションでは、新たに発足した四ヶ寺の活動についての発表が熱心に討議され、参考になりました。

さて、次回大会は群馬組の担当により、来年二月、伊香保温泉「ホテル天坊」を会場に開催が決まっております。教区各寺より二百八十名の参加が予定されています。壮年会の皆さんにもご協力をお願いする事があると思いますがよろしくお願いいたします。

講演内容

副会長 玉田 忠

「ご臨終です。」
医者として、こう宣言せざるを得ません。宣言が終わると、その場の雰囲気は急変します。

随分前ですが東大の矢内原総長が医学生に「全ての医者は坊主でもあれ。」とおっしゃり、「そうでないと告知のような大事なむごい事を口にできません」とも言われました。子供は三歳になると死のことに関心があるようになります。

セイちゃんと言う骨髄がんの患者がいました、私はその子の部屋に入るのが嫌でした。がんが脳に入って目が見えなくなりました、やむなくセイちゃんの目に包帯をまきました。「この包帯が取れると見えるようになるの？」と聞かれましたが、私はあいまいな返事しかできませんでした。やがてセイちゃんは亡くなりました。私や看護師は大声で泣きセイちゃんの遺体に、「ごめんね、治してあげられなくて。」と大声で泣きました。私達がピハラの会に入ってから定期的にお話を聞くようになったのはこうした事があつてからです。

ピハラの会に入っているヨツちゃんという患者がいました。「ヨツちゃん、こないだのお話、どこがよかったですか？」と聞きますと、「ここに出てくる人は皆一人残らず、お浄土へ撰(すす)く」といつてくれるんだと言ったよ。「ヨツちゃんお念仏したことない？先生と一緒にナマンダブを唱えてみよう。」と言って一緒に唱えました。もうヨツちゃんはナマンダブのお家の中に住んでいました。そして大きな安心を得ていました。

平成九年のことです。戸田さんという患者の病室に呼ばれて行ってみると、戸田さんの顔面はまるで般若の面を見るような怖い顔をしていました。「戸田さん、何処が痛い？」「全部！」私は思わず「戸田さん、お念仏しようね。仏さまは私を頼りにしてくれ、といつてるよ！」「ナンマンダブ、ナンマンダブ。」と大きな声で唱えつづけました。やがて戸田さんの顔は穏やかなものになっていきました。戸田さんは「生死を超えた安らかな世界」を得たのです。

私達はピハラの会に入ってから大切なお話を聞かせていただくようになり本当に良かったと思っております。



医療現場の実践を通して語られた、お念仏のみ教えによって救われた方々のお話を伺い、只々感激させていただいた講演会でした。

「宮崎先生」職歴
医療法人精光会理事長
みやざきホスピタル副院長

特集

一龍齋春水講談会

弘教寺仏教婦人会の二月例会は、一龍齋春水さんの講談で、「夫婦餅」と「金子みすゞ伝」の二席に百名を越す観客が集まった。

福永仏教会長の挨拶にはじまり、一席目の「夫婦餅」は江戸の美談でこれも新作だった。金子みすゞ伝は矢崎節夫氏が「童謡詩人、金子みすゞの生涯」を出版してから、TBS系のテレビドラマで松たか子主演「明るいほうへ明るいほうへ」が放映された、また田中美里主演の映画「みすゞ」が上映されている。東京・東宝芸術座では、池内淳子のおかあさん役と斉藤由貴のみすゞ役で上演され、学校図書にも取り上げられて、広く知られるようになった。



今回の演目「金子みすゞ伝」は、多く人の要望にこたえて、春水さんが、この日のために現地取材し、資料を調べ直して、十数本の詩も取り入れて、新作の講談としてまとめたものである。

ラストシーンは、別れた夫が娘のフーチャン(一歳)を引き取りに来る前夜、病身の身体を引きずりながら、娘を入浴させたあと、寝しずまるのを見届けてから、遺書を書いて

自害した。一龍齋春水さんの臨場あふれる演技が、大きな感動を呼び起こし、客席からもすすり泣き声が聞こえてきた。

(玉田夕記)

金子みすゞと浄土真宗

みすゞは、山口県長門市仙崎の生まれである。この地は、私の両親が山口県出身であることから、親戚の法事等の折、五、六回訪ねている。今は「みすゞ通」と名付けた、生家のあつた通りの一角に浄土真宗の遍照寺があり、みすゞのお墓もそこにある。家々のあちこちに、木板にゆかりの詩が書きこまれ、飾られてある。歩いていて楽しい。門徒さんと思われる家の玄関脇に、法座のピラが張られている。浄土真宗の法義の厚い地であることが分かる。

大漁
朝焼小焼だ
大漁だ。
大羽鱈の
大漁だ。
浜は祭りの
ようだけど
海のなかでは
何万の
鱈のとむらい
するだろう。



童謡詩人・金子みすゞ
一九〇三年(明治三十六年)生まれ、詩人中の巨星と期待されほど才能を示していたが、二十六歳で世を去った。

きない。親戚寺の萩市野波瀬の極楽寺を訪ねた時、「絶対にみすゞさんは、ご法話を聞いていないはず！」と坊守が強調していたことが忘れられない。詩の中に見られる動物、静物に向けられる細やかな愛情は、仏様の慈悲の心と言って良いであろう。だからこそ、多くの人を感動させているのである。祖父の出身である青海島の通(かよい)の港は、入江の深い湾で、昔から湾に入って来る鯨の捕鯨が盛んであった。特記したいのは鯨に法名を付け、位牌や過去帳に印し、捕鯨を止めた今日でも、毎年追悼の法要を欠かさず勤めていることである。昔は、報恩講の期間、漁師さん達は、出漁をせずに、法座に向いたと聞いている。みすゞの詩の数々は、こうした真宗的精神風土の中から生まれ出たと思うのである。

(住職記)



HP:みすゞ・長門市仙崎より

ご住職のご提案で毎月決まった日に、お寺で囲碁、将棋、麻雀の好きな人が、集まって楽しんでどうかと言うことになり、二月に門徒の橋本治太郎さんのご指導で囲碁の会が始まりました。毎月第二水曜日午後二時から始めます。ご希望の方はお寺まで申し込んで下さい。初心者、男女を問わず大歓迎です。囲碁の会、将棋の会、麻雀の会の会員を募集しています。



仮称「囲みの会」ご案内

せていただきました。ご協力いただいた皆様に深くお礼申し上げます。

バザー報告



二月二十日の一龍齋春水講談会当日に、バザー会場も設置され、大好評でした。十二万九千円と、かつてない売り上げとなりました。一部を関係団体に寄付させていただき、仏婦・仏社の活動費にも当てさせていただきます。

二月二十日の一龍齋春水講談会当日に、

富山県のご出身で、ご主人は家庭薬配置販売で群馬県の販売権を得て、昭和四十五年に百合子さんと三人のお子さんを連れて現在の大泉町仙石に移り住み、県下に幅広く販路を広げてこられました。平成十三年、ご主人が館林で交通事故に遇われて亡くなられました。これをご縁に弘教寺婦人会に参加するようになりました。現在は家を建替えられ一人住いで、美しい三毛猫が話相手、大変明るい性格で、ご近所に友人も多く、カラオケ仲間や、味の素フーズのOB会の友人との交流も積極的に付き合っております。お念仏を喜ばれている北海道の義姉の手紙や直接のことばが大きな励みになったようです。弘教寺の旅行には、長女と一緒に参加したこともありました。婦人会や壮年会の人たちに助けられ、今では一人でも参加できることを感謝しております。平成十七年、築地別院の報恩講の折、帰敬式を受けられ法名をいただきました。婦人会の例会には、朝五時半に起き、タクシ

いで西小泉駅まで出て、約一時間半電車を乗り継いでお寺へ行きます。墓参りを済ませてから例会に参加します。「行くときは少し大変ですが、帰りは満ち足りた気分になります。」とにこやかに話されました。



玉田夕

この人「又市百合子」さん(大泉町)

今後の行事予定

編集後記
道ばたの草花に春を教えてください、だより九号で春の便りをお届けします。講談では、みすゞさんの「感性の豊かさ」に感激、春水さんの「日本の話芸」に感動させられた心温まる一日でした。他方、連日テレビの「あたご」「餃子」では自己主張と政治の具にした発言のみ、思いやりと真実がない世相が心配です。(橋本マ記)

弘教寺関係		教区・群馬組関係	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 未定 婦人会役員会 未定 壮年会役員会 29日 永代経法要 	下旬	<ul style="list-style-type: none"> 弘教婦人会総会
5月	<ul style="list-style-type: none"> 未定 子供の集い 16日 弘教寺ゴルフコンパ 	下旬	<ul style="list-style-type: none"> 弘教壮年会総会
6月		4~6日	<ul style="list-style-type: none"> 群馬組念仏奉仕団

平成20年度の行事を立案中で決定後にお知らせします